



老いも若きも レッツちむに～！



シティプロモーション推進課 ☎ 65-1251

お手玉を手に、子どもも大人も真剣勝負！世代を問わず夢中になれる軽スポーツが、新居浜で誕生しました。その名も「ちむに～ぼ～る」。金子地区の住民が考えた、新しくもどこか懐かしい軽スポーツです。スポーツ教室や体験授業などを通じ、その魅力はじわじわと広がっています。

ルールはいたってシンプル。工場をイメージした箱に向かい、1.4m離れた場所から4つのお手玉を投げて点数を競います。激しい動きがないため、お年寄りにも取り組みやすいのが特徴です。

実はこの競技、地域に根付く文化や歴史を体現しているんだとか。ご当地色あふれる、ちむに～ぼ～るの魅力に迫ります！

軽スポーツ

運動量やルール、疲労度などが他のスポーツに比べて軽めで、年齢や性別、障がいの有無などを問わず、誰でも気軽に楽しめるスポーツ競技の総称です。介護予防にも取り入れられています。

4つをミックス



握る、集中する、投げる、数える、楽しむ。

健康づくりにも一役買っている「ちむに〜ぼ〜る」は、令和6年に誕生しました。その背景には、新居浜ならではの**4つの要素**がありました。

1

工業都市



新居浜は、江戸時代の別子銅山開坑によって繁栄した四国屈指の臨海工業都市。沿岸地帯には工場群が带状に並んでいます。そんな製造業のまちを象徴するのが、煙突（CHIMNEY：チムニー）です。

2

新しいをチカラに

Hello!
NEW

新居浜

市のシティブランド戦略「Hello！ NEW 新居浜」のブランドエッセンスは、「新しいをチカラにするまち」。今まででもこれからも、そんな町であってほしいとの思いが込められています。それを体現する、新しい軽スポーツの誕生です。

3

SDGs



新居浜市
SDGs 未来都市

本市は令和4年に国から「SDGs 未来都市」に選定され、SDGs 達成に貢献できるまちを目指しています。ちむに〜ぼ〜るは環境に配慮（リユース）した用具を使った、健康とつながりを創るゲーム。SDGs への取り組みの一つです。

4

お手玉



お手玉（BALL：ボール）の普及に尽力している全国組織「日本のお手玉の会」発祥の地です。お手玉文化による町おこしを図ろうと、平成4年に創立されました。毎年、市内外で「全国お手玉遊び大会」が開かれています。

interview

狭い場所でも、手軽にできるスポーツ

金子校区・体育振興会 藤田 明美 会長

アメリカ発のパーティーゲーム「コーンホール」を見て、これなら体育館を借りなくても狭い場所でもできる！とひらめき、体育振興会で提案しました。早速道具を購入しましたが、形が統一されておらず、重くて高額。もっと手軽にできるようにと、自分たちで考案したのがちむに〜ぼ〜るです。

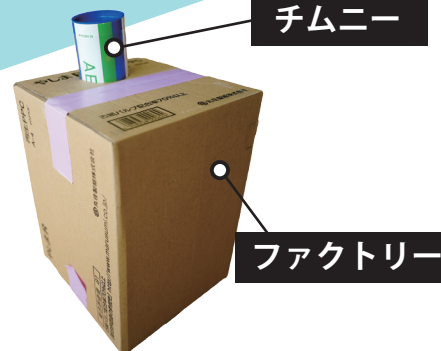
楽しいのはもちろん、普段使わない腕の筋肉や握力が鍛えられ、採点することで頭の運動にもなります。道具は自分たちで手軽に作ることができます。これから広く浸透して、多くの皆さんと一緒に楽しめたらいいなと思っています。



ルール

【準備するもの】

- ・使用済みの段ボール
- ・バドミントンシャトル（羽根）の空筒
- ・お手玉



- ① まずは、じゃんけんで **先攻・後攻**を決めましょう。
- ② ボール（お手玉）は、1ターン**4個**。交互に投げ合います。
- ③ 1ターン終了後、相手の点数を**差し引いた点数**が得点になります。
- ④ どちらかが **11点**になった時点で試合終了です。

同点の場合は
両者0点！

乗ったら1点
(ルーフボール)

入ったら3点
(チムニーボール)

0点

いよ（伊予）
1.4 m

投げるのは
下手投げ！

お手玉4個

駆け引きが大事

ちむに～ぼ～るの
魅力の一つに、駆け
引きがあります。着
実に1点を取るため
ルーフボールを狙う

人、チムニーボールで一気に点数を稼ぐ人、はたまた対戦相手の手玉を落とすという人も。作戦次第で勝負の行方が変わっていくのも、熱くなるポイントです。

8月に行われた三世代交流大会は、「世界大会」と銘打ち、大学生から80代まで幅広い世代が対決。年齢の壁も何のその、互いに駆け引きしながら、白熱した戦いを展開していました。

ちむに～、やってみた

世界大会の隅っこで、「エキシビジョンマッチ」として挑戦させてもらった。スポーツは苦手。でもルールは簡単だからとちょっと侮っていた。箱の上くらい、簡単に乗るだろう、と。

いざやってみると、投げてても投げてても斜めに飛んでいき、かすりもしない。なぜだ、なぜ真つすぐ飛ばない…。思ったより筒の穴は小さく、入る気がしない。その間、対戦相手は地道に点数を重ねていく。とどめにチムニーボールをお見舞いされ、10分もたたず試合終了。惨敗した。

普段あまりしない動きだからか、運動不足がたたったか、腕とふくらはぎが軽く筋肉痛だ。とはいえ、運動嫌いでもこのくらいなら楽しくできそう。リベンジに向け、この冬は猛練習に励もうか。





次世代へつなぐ

10月1日、金子小学校
では2年生児童が軽スポー
ツ交流会でちむに〜ぼ〜る
を体験しました。最初に、
審判を務めた金子地区住民
が手ほどき。子どもたちはグループに分かれ、「熱闘」を繰り
広げました。「チムニーボール」が成功するたび、仲間と顔を
見合わせて大はしゃぎ。体育館に明るい声が響き渡りました。



いっぱい友達と（対決）
できたし、みんなで仲
良く協力してできたのが
楽しかった。またやって
みたい！

青木 響也 君(金子小2年)

真ん中の筒に入ったり
入らなかったり、上にの
ったりするのが、すごく
楽しい。筒に3回入って
うれしかった！

加藤 咲恵 さん(金子小2年)



ここに
ハマった！



体格の有利不利があま
りなく、どんな人でも平
等にできる。落とす落と
さないの駆け引きが面白
いと思った。

大西 健豊 さん(20)

入った時はスカッと、
入らない時はショック。
せっかく入れても同点な
ら0点に。ハラハラ、ド
キドキが楽しい！

青木 八千代 さん(82)



年の差があっても、体が動かしづらくても、計算が苦手でも、
運動が嫌いでも、時間を忘れて熱くなってしまう。一投終え
るたびに喜んだり、悔しがったり。いつの間にか笑顔の輪が
広がっている。そして、押し付けではなく自然と、その背景
にある地域への思いを肌で感じられる。それが、ちむに〜ぼ
〜るです。

金子地区から市内全域へ、そしてゆくゆくは世界へと広がっ
ていく。そんな未来、遠くはないかも？